

平成29年度農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策)
事業実施地区 評価一覧

【近畿農政局】

項目	A評価	B評価	C評価	計(地区)
活動計画策定	5	0	0	5
農山漁村における農林水産物の販売・加工	0	5	0	5
農山漁村の「食」を活用し観光と連携したグリーン・ツーリズム	2	1	0	3
農山漁村の地域提案型活動	1	0	0	1
福祉農園等整備・支援事業	2	0	0	2
福祉農園等整備事業	3	0	0	3
農作業等支援サポーター育成事業、就農等支援研修事業	1	0	0	1
合 計	14	6	0	20

平成29年度 農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策)

1. 事業実施主体 評価一覧

【活動計画策定】5件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体	事業実施段階					評価	評価コメント
				H28	H29	H30	H31	H32		
近畿	滋賀県	高島市	広瀬のコレカラつくろう会	●	●	○	○	□	A	計画に沿って地域内の実態調査やイベントの開催、地域外との交流も意識した子ども体験プログラムを実施するなど、地域の活性化に十分な成果を上げていると認められる。
近畿	京都府	伊根町	伊根浦創造塾	●	●	○	○	□	A	計画に沿って地域内の実態調査や会議等の開催、定住促進プログラムや新製品の開発・パッケージ作成など、地域の活性化に十分な成果を上げていると認められる。
近畿	京都府	宮津市	上世屋定住促進協議会	●	●	○	○	□	A	人材活用対策は実施できなかったが、計画に沿って地域内の獣害調査や獣肉加工等試験販売、移住定住を目的とした地域ツアーの開催など、地域の活性化に十分な成果を上げていると認められる。
近畿	奈良県	奈良市	奈良追分協議会	●	●	○	○	□	A	売上が目標値を下回ってはいるが、取組状況及び実施体制については、計画通りに運営が実施されており、地域の活性化に十分な成果を上げていると認められる。
近畿	奈良県	葛城市	葛城山麓地域協議会	●	●	○	○	□	A	一部計画に沿った活動が出来なかった点はあるが、葛城山麓ウォークなど中心的な取り組みから、各地区における事業につなげていることは、交流人口の拡大など、地域の活性化に十分な成果を上げていると認められる。

(注1)「事業実施段階」の凡例： ○・・交付金対象年度(計画) ●・・交付金対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)

(注2)「評価」の凡例： A・・優良 B・・良好 C・・低調

【農山漁村における農林水産物の販売・加工】 4件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体	事業実施段階				評価	評価コメント
				H28	H29	H30	H31		
近畿	京都府	京都市	KEIHOKU Style	●	●	□		B	KEIHOKUStyle展を開催し、地域の暮らし、生き方、産業の魅力を発信し、都市や海外の人々と交流を深める事ができた。また、旅行社等招聘し、ファムトリップを実施するなど、今後の都市部の住民やインバウンドの呼び込みにつながるPRを強化した。既存のホームページを英語に対応した他、新たにオンラインストアを開設し、商品開発したものを販売する等、活動内容を充実させて、都市と農村の交流に成果を上げていると認められる。
近畿	兵庫県	猪名川町	阿古谷みらい協議会	●	●	○ □		B	年間のグリーンツーリズム事業により、阿古谷地域の農産品・自然・農業従事者が持つ魅力を伝える事ができた。地域農産品を活用したお弁当を政策し、試食会を実施したり、試験的に配達を実施し、制作体制の確認や次年度以降の販売に向けたテストマーケティングを行った。地域農産品を活用した新商品を開発(いちごタルト、ポテトチーズケーキ)し、試食会を実施し、次年度以降の販売が視野に入ったことから、成果を上げてると認められる。
近畿	大阪府	能勢町	大阪能勢田尻菊炭振興協議会	●	●	□		B	能勢菊炭による焙煎珈琲のワークショップ及び商品開発は地元の若手住民、特に女性方に反響が大きくワークショップや商品化のスタッフとして参加協力を得られる展開となっており、将来の事業化に向けた体制が整った。その他、協議会のホームページやフェイスブック等で事業の活動レポートなどを掲載し、閲覧してもらえる状況となったことから、都市と農村の交流に成果を上げていると認められる。
近畿	京都府	与謝野町	滝・金屋農業振興会	●	●	□		B	与謝野町で栽培したトマトを使った加工品(レトルトカレー)が4種完成させ、販売した。また、地域・農業者・大学生で構成するワークショップを8回開催、自然や農業を軸とした企画型グリーンツーリズムを3ツアー実施し、都市と農村の交流に成果を上げていると認められる。
近畿	大阪府	箕面市	箕面市農業振興協議会		●	○	□	B	不耕作農地を借り受け、保全員を雇用し、畑づくり～作付を行った結果、保全管理した農地面積は0.9haとなった。また、開拓員を雇用し、学校給食との連携強化とともに、市立病院や保育所など、新たな販路(4箇所)を開拓し、都市と農村の交流に成果を上げていると認められる。

(注1)「事業実施段階」の凡例: ○・・・交付金対象年度(計画) ●・・・交付金対象年度(実施済) □・・・目標年度(計画) ■・・・目標年度(実施済)

(注2)「評価」の凡例: A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調

【農山漁村の「食」を活用し観光と連携したグリーン・ツーリズム】 3件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体	事業実施段階				評価	評価コメント
				H28	H29	H30	H31		
近畿	兵庫県	多可町	俵地域協議会	●	●	□		A	滞在型市民農園の入居者(都市住民)や大学生との連携によるイベント開催及び特産品開発、地域住民一体となったボランティア活動による里山整備などにより、都市農村交流の推進が図られ、目標も達成されていることから、成果を十分上げていると認められる。

(注1)「事業実施段階」の凡例: ○・・・交付金対象年度(計画) ●・・・交付金対象年度(実施済) □・・・目標年度(計画) ■・・・目標年度(実施済)

(注2)「評価」の凡例: A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調

【農山漁村の「食」を活用し観光と連携したグリーン・ツーリズム】 3件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体	事業実施段階				評価	評価コメント
				H28	H29	H30	H31		
近畿	奈良県	橿原市	天ノ香具山南協議会	●	●	□		B	地元の農産物等を原料とした加工食品や土産物の開発、事業実施体制の強化など改善が必要な事項もあるが、各種イベントの実施により交流人口が目標を上回るなど、目標を一定程度達成していることから、成果を上げていると認められる。
近畿	奈良県	宇陀市	宇陀市菟田野地域活性化協議会	●	●	□		A	地域資源を活用した体験ツアー、インバウンド向けプログラム及び園芸療法を活かした福祉的商品等の企画・開発、モニターツアーの実施、広報活動の充実などにより、都市農村交流の推進が図られ、目標も達成されていることから、成果を十分に上げていると認められる。

(注1) 「事業実施段階」の凡例： ○・・交付金対象年度(計画) ●・・交付金対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の凡例： A・・優良 B・・良好 C・・低調

【農山漁村の地域提案型活動】 1件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体	事業実施段階				評価	評価コメント
				H28	H29	H30	H31		
近畿	京都府	京都市	なんやかんや「大原野」推進協議会	●	●	○ □		A	活動計画に沿って地域内のイベントやツアーの開催、酒造りや加工食品の開発、ホームページやポスターでの情報発信など、都市と農村の交流に十分な成果を上げていると認められる。

(注1) 「事業実施段階」の凡例： ○・・交付金対象年度(計画) ●・・交付金対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の凡例： A・・優良 B・・良好 C・・低調

【福祉農園等整備・支援事業】 2件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階				評価	評価コメント
				H28	H29	H30	H31		
近畿	滋賀県	栗東市	特定非営利活動法人縁活		●	○	□	A	こんにやくの加工場とコミュニティ施設を整備したことにより、障がい者がこんにやくの生産・加工と販売まで従事できる環境をつくるとともに、地域の交流会を通じて農福連携の理解を醸成していることから、障害者雇用の拡大に十分な成果を上げていると認められる。
近畿	滋賀県	日野町	社会福祉法人わたむきの里福祉会		●	○	□	A	農産物の加工場を整備し、障がい者が農作業や加工作業に従事する体制が整ったこと、また、専門家を招聘し農産物の栽培指導を受け、安定した品質・収量を確保する取組を実施したことは、障害者雇用の拡大に十分な成果を上げていると認められる。

(注1) 「事業実施段階」の凡例： ○・・交付金対象年度(計画) ●・・交付金対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の凡例： A・・優良 B・・良好 C・・低調

【福祉農園等整備事業】 3件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階				評価	評価コメント
				H28	H29	H30	H31		
近畿	滋賀県	草津市	富士産業株式会社		●	○	□	A	品質管理の充実に対応する冷蔵設備を導入したことにより、農産物の生産量の増大に対応した出荷調整を可能とし、障害者雇用の拡大・所得の向上に十分な成果を上げていると認められる。
近畿	兵庫県	佐用町	一般社団法人小野の駅		●	○	□	A	ミツマタの加工施設を生産圃場に隣接して整備したことにより、加工効率の向上が図られ、障害者雇用の拡大・所得の向上に十分な成果を上げていると認められる。
近畿	和歌山県	有田川町	社会福祉法人きびコスモス会		●	○	□	A	低コスト耐候性ハウスを整備し、様々な障がいを持つ方が作業に従事できる環境を整備したこと、また、高機能性果実を栽培することにより売上増が見込まれることから、障害者雇用の拡大・所得の向上に十分な成果を上げていると認められる。

(注1) 「事業実施段階」の凡例： ○・・・交付金対象年度(計画) ●・・・交付金対象年度(実施済) □・・・目標年度(計画) ■・・・目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の凡例： A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調

【農作業等支援サポーター育成・支援事業、就農等支援研修事業】 1件

農政局等	都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階				評価	評価コメント
				H28	H29	H30	H31		
近畿	奈良県	高取町	高取町ワークシェアリング地域づくり協議会		●	○	□	A	ジョブトレーナーの派遣により、受入農家の負担軽減が図られ、受委託面積が増えていること、就農等支援研修を実施したことにより、地域の農業経営体への障害者雇用に結びついていることから、障がいの者の雇用拡大に十分な成果を上げていると認められる。

(注1) 「事業実施段階」の凡例： ○・・・交付対象年度(計画) ●・・・交付対象年度(実施済) □・・・目標年度(計画) ■・・・目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分： A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調

2. 平成29年度農山漁村振興交付金（都市農村共生・対流及び地域活性化対策）の評価概要

本交付金の事業実施の評価は、平成28年度及び29年度に採択した20地区を対象とし、事業実施主体から提出のあった自己評価書等をもとに、有識者で構成する評価委員会による意見聴取を行った上で評価を実施した。

その結果、農村振興計画及び事業実施計画に基づく取組がほぼ実施され、成果を十分上げていると認められる評価「A」が14地区で全体の約70%、成果を上げていると認められる評価「B」が6地区で全体の約30%となっており、本交付金を活用した取組により、都市と農山漁村の共生・対流の推進が図られるなど、全地区において一定の成果が発現されていると認められた。

評価委員会委員からは、

- ①農山漁村振興計画に定められた目標の達成状況が成果を上げていると認められることから、今後とも発展的な取組がなされるよう期待する。
- ②農山漁村振興交付金の評価手法については、これまでの本委員会での他の交付金事業に対して出された意見が反映され改善が図られていると認められる。今後とも、より一層公正かつ的確な評価がなされるよう、検討、改善を継続していくことを期待する。

との意見が出された。

3. 平成30年度農村振興関係交付金評価委員会の議事概要

○第1回評価委員会(事前説明)

1. 日 時:平成30年7月30日(月)10:30~10:45

2. 場 所:紀の里農業協同組合事務室

3. 出席者:

・評価委員会委員

小田滋晃 京都大学大学院農学研究科教授

伊原和彦 ETC教育旅行コンサルタント代表

・評価委員会事務局

近畿農政局担当者2名

4. 議事要旨

1)平成29年度近畿農政局農村振興関係交付金の評価について

平成29年度近畿農政局農村振興関係交付金評価対象地区、評価基準等を確認。

2)今後の予定について

第2回評価委員会(現地調査)、第3回評価委員会(意見聴取)を行い、その後、評価の概要等をホームページにて公開することを確認。

○第2回評価委員会(現地調査)

1. 紀の里農業協同組合(和歌山県紀の川市)

1) 日 時:平成30年7月30日(月)10:45~12:20

2) 場 所:紀の里農業協同組合事務局

3) 出席者:

・評価委員会委員

小田滋晃 京都大学大学院農学研究科教授

伊原和彦 ETC教育旅行コンサルタント代表

・事業実施主体

紀の里農業協同組合 担当者(事務局)

・評価委員会事務局

近畿農政局担当者2名

4) 委員の主な意見

・体験プログラムだけでなく宿泊プログラムを開発し単価を上げていくことが重要。

・紀の川市へアクセスするためのインフラはかなり整備されているので、大阪府だけでなく奈良県も視野にPRをしてはどうか。等

2. 社会福祉法人きびコスモス会(和歌山県有田川町)

1) 日 時:平成30年7月30日(月)14:20~16:20

2) 場 所:社会福祉法人きびコスモス会事務局

3) 出席者:

・評価委員会委員

小田滋晃 京都大学大学院農学研究科教授

伊原和彦 ETC教育旅行コンサルタント代表

・事業実施主体

社会福祉法人きびコスモス会 理事長 ほか2名(事務局等)

・評価委員会事務局

近畿農政局担当者2名

4) 委員の主な意見

・栽培に取り組んでいる高付加価値農産物を、有田川町の特産品として売り出せば集客に繋がるのでは。

・冷凍乾燥加工フルーツも出来がいいので、PRして行けば売上げ増に繋がり、障がい者の賃金向上へと繋がるのでは。等

○第3回評価委員会

1. 日 時:平成30年8月20日(月)10:00~11:30

2. 場 所:近畿農政局第3会議室

3. 出席者:

・評価委員会委員

小田滋晃 京都大学大学院農学研究科教授
平山奈央子 滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科助教
伊原和彦 ETC教育旅行コンサルタント代表

・評価委員会事務局

近畿農政局担当者8名

4. 議事要旨

1) 委員長の選任

・評価委員会設置規程第5条に基づき、委員の互選の結果、委員長に小田委員が選任された。

2) 第2回評価委員会(現地調査)の概要について

・第2回評価委員会(現地調査)の概要について確認。

3) 事業評価について

・平成29年度に事業を実施した57地区から報告された自己評価等について、各委員が評価及び検証した内容を確認し、評価委員会としての評価(総合評価「A」41地区、「B」13地区、「C」3地区)を決定。

・評価が「C」となった3地区を除く全地区においては、一定の成果が発現されており、共生・対流促進計画及び農山漁村振興計画に定められた目標を達成していると認められることを確認。

・評価「C」となった地区においては、農山漁村振興計画に定められた目標の達成状況が低調であることから、目標達成に向けて重点的に指導する必要があることを確認。

・今後とも、より一層公正かつ的確な評価がなされるよう、数値目標の達成状況のみでなく、プロセス評価の導入や評価書の実施体制の項目の記載すべき事項の例示など、検討、改善を継続していくことを期待。

4) 今後の予定について

・委員長から近畿農政局長に対して本日決定した評価内容の報告を行い、その後、農政局から本省へ報告するとともに評価の概要等をホームページにて公開することを確認。また、評価が低調な事業実施主体に対しては、重点的指導を実施することを確認。